研究部会報告

●ゲーム理論とその応用●

今年度に入ってからつぎのような報告が行なわれた.

5月　船木由喜彦（東京工大・数学）「不確性のもとでの効用についての公理論的接近」

6月　丸山　徹（慶応義塾大学経済学部）「Aumann-Peleg の変分問題」

丸山　徹（上記）「Lyapunov の定理の拡張について」

7月　浦谷　規（東京工大・社会工学）「OPEC 戦略のゲーム論的考察」

武藤滋夫（東京工大・情報科学）「再保険のゲーム理論」

8月　杉山光正（東京工大・情報科学）「寡占市場の分析」

武藤滋夫（東京工大・情報科学）「Spanning tree に関する費用配分」

山本芳嗣（東京工大・情報科学）「Spanning tree の作る多面体」

9月　S. Hart（スタンフォード大学・OR）「Non-Atomic Games」

是枝正啓（長崎大学・経済）「譲渡可能効用をもたない取引ゲームのコア」

10月　岡田　章（東京工大・システム科学）「クールノー寡占における企業間の情報交換」

鈴木光男（東京工大・情報科学）「情報市場の分割関数形ゲームによる定式化」

11月　船木由喜彦（東京工大・数学）「Values of non-atomic games」

杉山光正（東京工大・情報科学）「情報市場のコア」

12月　薗　泰三（東京工大・数学）「Nash の交渉解の倫理」

岡田　章（東京工大・システム科学）「不完備情報の寡占市場」

なお，この部会のメンバーである東京工業大学助教授中村健二郎氏は昨年3月末から肝臓の病を得て療養中であったが，54年10月27日に亡くなられた．氏はゲーム理論的方法による社会選択関数の理論についてすぐれた業績をあげ，今後の活躍が期待されていた．有力な研究者を失ってきわめて残念に耐えない．

●政策科学●

9月例会　9月29日(土)　14:00～17:00　場所：三菱総研会議室，出席7名.

(1)　紹介「行動科学の系譜」（三菱総研・佐野忠男氏）：1860年に米国で刊行されたダーウィンの『種の起源』が進化論→機能主義→古典的行動主義→本能心理学→新行動主義をへて60年代初期に，学際的研究を目ざす行動諸科学→政策科学に発展した経過と，ソ連や東欧では社会学やサイバネティクスはブルジョア学とされていたが，最近ではこれを重視し，政策科学が政策決定に寄与する学問として生まれつつあることを紹介した.

(2)　研究発表「日本のエネルギー源問題」（上田イノベーション研究所・上田亀之助氏）：人類がエネルギーの存在に気づいてから200年たつが，石油の生成過程には謎が多く，政治かけ引きの道具になりやすい．石油は水素と炭素から成っているので，技術が進めば水と炭酸ガスや酸化炭素から合成できるはずだと見る.

10月例会　10月20日(土)　14:00～17:00　場所：三菱総研会議室，出席6名.

(1)　研究発表「太陽エネルギーと政策科学」（同上・上田亀之助氏）：太陽は今後50億年くらいは安定して供給を受けられる無限のエネルギー源である．エネルギーの主役は薪炭→石炭→石油と交代し，原子力と太陽の時代になるとともに多様化しつつあり，やがて液化水素燃料の時代がくるし，水と炭酸ガスと太陽光による光合成も考えられてよいと提案した.

11月例会　11月17日(土)，14:00～17:00　場所：三菱総研会議室，出席7名．文献紹介：R. D. プロトニック「米国社会福祉支出の分析」（山武ハネウエル・小林守信氏）；米連邦政府の福祉予算は1965～76年に偉大な社会計画と厚生年金制度の改善，インフレと人口増大などのため急増し，大部分は救貧にあてられた．が，不正な過剰支払いや非能率のため貧困層は減っておらず，（終身雇用の日本と違って一時レイオフされた労働者の生活を税金で助けている恰好だから）雇用制度の改革が必要だと問題を提起した.

12月例会　12月15日(土)，14:00～17:00　場所：前月に同じ，出席10名．文献紹介：「ポリシー・デザイン法(1)」（防衛庁・斉藤昂氏）.

1月例会　1月19日(土)，14:00～17:00　場所：前月に

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

同じ，出席7名．文献紹介「ポリシー・デザイン法(2)」(防衛庁・斉藤昂氏)：日立の中村和夫氏が開発されたPD法は目的指向の演繹的な問題解決法であり，論理的には①徹的した機能追求と②常に「なぜ？」と疑う弁証法を基本とし，方法としてはシステム思考と創造的発想の手順を踏むと紹介．そのあと「ある飼料工場の合理化問題」を例に引きながら，ブレーン・ストーミングによるアイデアの発掘，評価基準の設け方，関連樹木法による解決機能の組立て，クリティカルパスの決定，実現可能な理想案の選択などの手順を示したが，全員でこの方法を使って何か事例研究をやってみようということになった．

◉実施理論◉

11月例会　11月17日(土)，15:00～17:00　東京工業大学(大岡山キャンパス)，出席者11名

Schultz & Slevin(1975)の第8章 Implementation Attitudes：A Model and a Measurement Methodology，第9章 Behavioral Factors in System Implementation について，それぞれ椿委員と黛委員の担当で講読会を行なった．第8章は，OR/MSプロジェクトの成功を，利用者集団の変化に対する抵抗の観点から論じ，成功指標の開発を試みており，第9章は，開発者と利用者間の協働や単純なモデルから複雑なモデルへの移行といった実施戦略を論じている．

12月例会　12月15日(土)，15:00～17:00，東京工業大学(大岡山キャンパス)，出席者15名

Schultz & Slevin(1975)の第10章，Improving the Implementation of OR/MS Models by Applying the Lewin-Schein Theory of Change について，中川委員の担当で講読会を行なった．第10章は，OR/MSモデルの実施過程に，Lewin-Schein の変革理論を適用し，好ましさのレベルにおいて高い Unfreezing・Changing・Refreezing が OR/MS プロジェクトの成功指標と相関関係にあることを，質問紙調査法にもとづいて論じている．講読会終了後，今後の部会の進め方について討論し，当部会独自の実施理論モデル構築を目ざす分科会を設けることが決定された．また，部会終了後，忘年会を行なった．

◉都市計画と交通◉

第26回　11月28日(水)“都市と交通”講演者：角本良平氏（交通評論家）出席者14名

都市は地理と歴史の交差のうえで理解する必要がある．都市の構造は固定性が強い(建物よりも強い)．事実の理解が大切である．‘欧米では’などと一括して述べたがることとともに，巷間の議論には不正確な理解にもとづくものが多い．(たとえば，建設白書の東京とパリの密度比較でも，人口か就業者数か，市域のとり方などが問題．)それから新技術の評価について，都市においてはすべての新技術は無意味である！　自動車交通は決して麻痺しないし(ベンセンの研究)，新交通システムは役に立たない（誰も支持しない贅沢な遊び！）との論が述べられた．世界各国の多くの都市を見てきての話で適切な指摘も多かったが，交通麻痺の定義をはじめいろいろと議論を呼ぶところがあった．

第27回　12月12日(水)“国鉄の現状と再建構想”報告者：日巻敏夫氏（国鉄）出席者10名

国鉄の財政は，昭和39年から赤字となり，さらに46年からは償却前で赤となり，今や長期債務10兆円，繰越損失3.6兆円に達しようとしている．この原因を，運賃(改定タイミング，改定内容)，人件費(年齢構成，恩給，社会保険料)，ローカル線，公共負担，貨物輸送の変化等の面からていねいに説明された（国内航空運賃の国鉄および米国内航空との対比は，航空の強い区間と賃率の定め方がうかがえて面白い．)あと，再建構想案が述べられた．

当日，このあと東洋経済ビル8階で例年通り懇親会をもった．

◉日本における社会システム◉

第5回例会　54年12月1日(土)　14:00～17:00
日本能率協会　101研修室にて開催，参加者21名
議題：日本的合理主義と日本病の根源を考える
東京大学　公文俊平氏

日本的合理主義が社会システムの中でどのように作用し，それが日本の歴史(とくに Nation State 形成のための胎動期から現代まで）の発展過程にどのような影響を及ぼしてきたか，さらには今後どのような方向に変革をもたらすかについて突込んだ研究がなされた．現在の日本のかかえている諸問題については，さまざまな見解が示されているが，少なくとも日本の歴史の中では重要な転換期にさしかかっているという点で参会者の意見は一致した．　(主査　小島光造)

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．